

など多岐にわたり、観測的研究と合わせ広く電波科学の立場から他の分科会との交流を深めている。

このような研究を推進するため、J-分科会は、主に、IAU(国際天文学連合)と、さらには COSPAR(宇宙空間研究委員会)、SCOSTEP(太陽地球間物理学科学委員会)、IUGG(国際地球物理学・測地学連合)、FAGS(天文学・地球物理学データ解析事業連盟)などとの協力を進めており、URSI 総会の他3年間に3件程度の国際研究集会を共催している。また IUCAF(電波天文学・宇宙科学のための周波数割り当て委員会)を通じて、IAU、COSPAR と協力して電波観測環境保護のための

活動を行っている。

国内 J-分科会は、顧問1名、関連分科会委員2名、学術会議会員1名、委員17名で構成され、日本天文学会、宇宙電波懇談会など各種研究会の機会に電波天文学に関する研究連絡、情報交換を行うとともに、天文月報、宇宙電波懇談会ニュースなどをとおして J-分科会関連の活動報告を行っている。また URSI 総会時にあわせて3年間の電波天文学研究のレビューを行い、URSI 国内委員会報告としてまとめている。

石黒正人

(日本学術会議電波科学連絡委員会 J-分科会委員長)

日本学術会議だより

№.30 より抜粋

アジア学術会議 11月に開催

平成5年10月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、アジア学術会議、本年6月に閣議了解を得ました平成6年度日本学術会議共同主催国際会議の概要及び日本学術会議が本年度において実施する地域活性化施策推進事業等についてお知らせします。

アジア学術会議について

- 1 日本学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者を東京に招き、本年11月15日(月)から18日(木)までの4日間、アジア学術会議を開催します。
- 2 アジア地域との学術分野における交流の重要性については、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」(平成5年4月、日本学術会議第116回総会採択)においても指摘されたところですが、「日本学術会議だより」(No.29)参照)、地理的、歴史的、文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流は、それぞれの国の学術の発展、ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要なことでもあります。
このことから、日本学術会議は、アジア地域の各国における学術研究の現状について情報交換を行うとともに、アジア地域における学術研究分野での連携・協力の在り方などについて討議し、併せてアジア地域の学術研究者間の相互理解と信頼を深めることを目的として、本年度からアジア学術会議を開催することとしました。
- 3 このアジア学術会議は、特定分野に限らない全学問領域にわたるアジア地域の科学者による連携・協力のため

の初の国際会議であり、その意義は極めて大きく、日本学術会議では、会議の成果をあげるため、既に本年4月、アジア学術会議実行委員会(委員長:渡邊格・日本学術会議副会長、副委員長:川田侃・同副会長)を設置し、関係学協会の御協力の下、開催に向け、鋭意、準備を進めているところです。

会議の概要は以下のとおりです。

- (1) 主催
日本学術会議
- (2) 日程
11月15日(月)開会式(基調講演、特別講演等)
歓迎レセプション
16日(火)会議(自由討議)
17日(水)視察(筑波研究学園都市)
18日(木)会議(自由討議)、閉会式
- (3) 会場
三田共用会議所
[東京都港区三田2-1-8]
[電話 03-3455-7591]
- (4) 参加者
インド、インドネシア、シンガポール、タイ、大韓

民国、中華人民共和国、日本、フィリピン、マレーシアの各国の学術推進機関（アカデミー等）から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者21名（日本からは、近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃同副会長が出席の予定）

- (5) 議題
「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」

日本学術会議主催公開講演会

—— 女性科学研究者に期待する ——

日本学術会議は、学術の成果を国民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年3回公開講演会を開催しています。

この度、次の公開講演会を開催しますので、お知らせします。多数の方々の御来場をお待ちしています。

- (1) 日時 平成5年11月26日（金）13:00~16:30
 (2) 会場 日本学術会議講堂
 （地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩1分）
 (3) テーマ 「女性科学研究者に期待する」
 (4) 演題及び演者
 ・女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組

須藤 一（第5部会員、東北学院大学工学部教授）

- ・女性学ジェンダー論の発展と役割
加藤春恵子（第1部会員、東京女子大学現代文化学部教授）
- ・自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題
本間 慎（第6部会員、東京農工大学農学部教授）
- ・女性科学研究者の地位向上と基盤整備（スウェーデンを例として）
一番ヶ瀬康子（第1部会員、日本女子大学人間社会学部長）

〔申込方法〕

聴講（入場無料）を希望される方は、はがきに、郵便番号、住所、氏名を明記し、11月12日までに下記までお申し込みください（複数人の連記可、FAX送付可）。締切り後も、席に余裕があれば、受け付けますので、下記までお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
 日本学術会議事務局「公開講演会係」
 TEL 03-3403-6291(代) 内線228
 FAX 03-3403-6224

書評

宇宙の黒幕——

ブラックホールの素顔

岡本功・鎗木修著

岩波書店“New Science Age-3”シリーズ50
 定価1200円 128ページ

著者2人は6年ほどの差はあるがともに昭和2桁の生れ、東北の地にフィットした重厚な研究態度で天体物理学の第1線で活躍している世界的な研究者である。野球にたとえるならば、重い球を投げるピッチャーで、スピードは岡本が勝るが、鎗木の球は一層重いスローボールである。岡本のまえがきと鎗木のあとがきを読むと二人の特色があらわれていて面白い。タイプはちがうが、二人ともロマンチストの多い天文学界屈指のロマンチストである。

まず、ブラックホールを黒幕になぞらえた所以が語られる。第1章黒幕登場、第2章黒幕の心理学は鎗木の受け持ちであるが、ホーキング・ブームに浮かされて飛びついた読者はここで鎗木の重

い球をガツンと喰わされる。しかし、ドライだがやさしい鎗木の解説は懇切で、単なる知識でなく本質を知りたい人には爽快感を与える。事象の地平線・エルゴ圏・（ブラックホール）エントロピーなど基本的だがむずかしい概念が精一杯やさしく説明されている。読者は二三度読み返して宇宙観を身につけるとよい。それも面倒な人は夢の世界に遊ぶつもりで傾に読んでも得るところがあるだろう。

後半の4つの章は岡本の受持ちとあるが、秋篠寺の技芸天の如く首と胴とのつながりは時代のちがい（著者のちがい）を超えてしっくりしている。話は恒星進化から始まる。それがやがてブラックホールの進化の話になる。それがすぎるといよいよ宇宙のエネルギー源としてのブラックホールの話へ進む。このあたりは二人の共同研究の成果の解説が含まれていて迫力がある。最後の章は岡本プロダクションによるバーチャル・リアリティーの世界である。こういう作品は学者に生真面目さを求める日本の読者にはあまり受けない可能性もあるが、欧米特にフランスあたりでは大いにもて